

# 荒井の呉服屋さん

(有)玉屋  
今西 康介 氏



Q. この出で立ちですぐお分かりだと思います。荒井の呉服屋さん、有限会社玉屋の今西康介さんでいらっしゃいます。お店の様子がスクリーンに出ておりますが、玉屋さんというマークがありますか。

A. そうですね。これはもともと、紋の中にいろんな形があるんですが、僕のおじいさんが自分のところのマークみたいな考え直したものをずっと使っていることです。

Q. おじいさまがということを言われましたが、お店は何代目でいらっしゃいますか？

A. 私で6代目になりまして、安政5年、1858年からやっております。もともと安政から戦前までは京都で商売をしておりまして、おじいさんたちの代でこちらに移ってきたんですね。ですから私なんかはもちろん高砂で生まれておりますけれども、親父なんかは京都で生まれている、小さい頃にこっちに来たりしてらるんですね。で、まあ先ほどの釣田さんと同じで、ずっと高砂のサンモールにお店がありましたけれど、閉鎖になりましたので、僕の実家である荒井の小松原の家の庭を全部つぶして、急遽お店を建てたということです。

Q. そうなんです。今西さんはそもそも呉服屋さんを継ごうと思っていらっしゃって、ということでしょうか。

A. もちろん小さなころから頭の中にどこかであったんですけども。中学校の時は学校の先生になりたいとか考えたりしましたが、高校生ぐらいになると、こういう伝統的な商売を続けていけないといけないのかな、と思ってました。その後、業種は違いますが将来お店を継いだ時に役立つようなことをやってみたくということで、ファッションショーのスタイリストになりました。

Q. ファッションショーのスタイリストということは、高砂ではなく、どちらで？

A. 東京の方に行ってたんですけども。その時まだ本当に家に帰って仕事をする決心がつかないままだったんですけども、ある時ジャン＝ポール・ゴルチエさんというデザイナーの方とお仕事をご一緒させていただいたときに、「君、家はどのような仕事をしているんだ」というような話をし、「実は着物を売る商売をしてるんです」と話したら、「今すぐ家に帰って、その素晴らしい仕事を継ぎなさい。日本の着物は本当に素晴らしいから、頑張ってその仕事をやったらいいよ」という話をされて、それがきっかけとなって、今仕事しているということです。

Q. そうですか。今、お店で売っていらっしゃるのは呉服であったり和服ですか。

A. もちろん呉服屋ですから着物の事に関しては全てなんでも全般的に取り扱っている、それと僕が少し専門的な知識があって宝石も扱っておりますし、あとは今とても良く皆さんにご注文いただいているのはお祭りの法被であったり、衣装やその他のぼりといったお祭り用具ですね。

Q. 玉屋さんの売りといいますか、ここは他の店とは違うよ、というようなところってというのは、どこですか？

A. 初代の人なんかは、自分たちのお店の事より、やっぱり買われるお客さんの事を考えなさいよ、というのを昔から言っておられたそうなんです。それで専門家としてきちっと商品を見極め、その商品の正しい価値で、きちんと販売する、ということですね。それに加えいろいろ僕が勉強してきた、その人にあったコーディネートをする、たとえば帯締め一本であっても変わると思うんですけども、あんまりそういうこと考えているところが少ないように見受けられます。たとえば振袖なんか二十歳の人にとって、一生に一回のお買物であったりするわけですから、それにきちっと答えられることを、本当に真剣に考えるってことです。

Q. 和服というのは今はいわゆる特別な日に着るものというイメージがありますね。

A. そうですね。もちろん僕らのおじいさん、もうひとつ前のひいおじいさんの時代は、着物っていうのは日常に着る衣服でありましたけど、今は本当に特殊なものになってます。今は機能的な服がたくさんできていますから、だからこそ逆に着物を着る時ってどういふときだろって思ったときに、やっぱりその人にとってすごく特別な時間だったりすることがあるんですね。その特別な時間だからこそ、今まであまり呉服屋さんが意識してなかった、その人その人にあったコーディネートっていうのがより大事になっていくんじゃないかと思っています。

Q. とところで、オフの日になにか気晴らしになるようなことであったり、何かしてらっしゃいますか？

A. 高砂は謡曲の町ということで誘われて、お亡くなりになりました松本先生に謡曲を習いに行くようになります、10年ぐらいやっておりますでしょうか。おかげさまで今、高砂神社でご結婚式とされる方がある時には、もともと先生がされていたんですけども、今は私が行ける時には代わりに謡をしたりとかしています。

Q. おお、すごい。いいですよ。皆さん聞きたいですよ。(場内拍手)

A. 本来は正座してするんですが、イスに座って。ほんと、さわりのところだけ。『たかさごや このうらぶねに ほをあげて…』と、こんな感じで(笑)。(いい声～!! 場内大拍手)

Q. 新郎新婦が見えましたね、今(笑)。いや素晴らしい。最後になにか皆様にお伝えになりたいこととかはございますでしょうか。

A. そうですね、すごく入りづらい店ですけども、入っていただくとなんでもご相談いただけるっていう、とにかくご相談いただいたことにきちんと真摯に向き合って答えを出していくっていうことは考えておりますので、もっとお気軽に聞いていただけたらとおもいます。もちろん祭りの事であっても随分というんな方々にお世話になっていきますのでなんでも気軽に一度訪ねてください、ということでもよろしくお願いいたします。



## 店舗情報

(有)玉屋

住所: 高砂市荒井町小松原3丁目14-10  
TEL: 079-443-2400  
営業時間: 10:00~19:00  
定休日: 水曜日

## 公開インタビューへ参加したい＆自分のお店を知ってもらいたい方は是非ご連絡ください!

皆さん、お店や店主の事、少しは知っていただけましたでしょうか。誌面にはほんの一部しか掲載できず、公開インタビューではもっと深いお話がいっぱい!!是非お店に足を運んでいただき、店主や商品の魅力に触れてみてください。なお、当部会ではこれからもこの事業を行ってまいりますので、次回の公開インタビューには是非会場にお越しください。また、「うちの店を知ってもらいたい!」「こんな商品あるんやで!」等、自分のお店を紹介したい“○○屋さん”はご連絡下さい。(応募者多数の場合は、こちらにて決定させていただきます。ご了承ください。)

# 商業部会 Vol. 04

2019.7.1 発行

目次

インタビュー紹介  
(有)ミスターハマ  
(株)たかはしメガネのたかはし  
(有)つりた  
(有)玉屋

# もっと知りたい! あの店!この人! 通信



写真: 右(公開インタビュー前の一コマ) インタビュー前の部会員の方々。緊張されています。写真: 中央(インタビューを終えて) 無事インタビューを終えて緊張がほぐれた瞬間です。写真: 左(インタビュー中の一コマ) 時折笑い声が出るような、楽しい雰囲気でした。

## 5/13 第4回公開インタビュー実施しました!

去る5月13日(月)、高砂商工会議所大会議室におきまして、「もっと知りたい!!あの店!この人!」第4回公開インタビューを実施しました。第4回目となる今回は、インタビューの後に「高砂の町に恋して～」と題して、(有)ミスターハマの濱田隆氏にお話をいただきました。濱田さんは昭和20年に高砂町南浜でお生まれになり、現在74歳。当時はお母様が理容店を営んでおられたそうです。21歳の時、お母様の後を継いだ当時のことを、こう語られました。

『私は修業時代は神戸におりまして、21の時、店を継いだんですよ。店を継いでも客継げずということですね。それまで超満員なんですよ。おふくろは口癖で言うてましたよ。「たかちゃん。わしなあ、一生遊べるぐらい儲けたで。」って。そんな店を継いでね。客がおらんようになったんですよ。おふくろは超ベテラン、腕は立つ、口は立つ、心配りは十分できる。それで大繁盛でしょ。何にもわからん若造が神戸から帰ってきて、客は見抜きますよ。誰も来なくなる。こっからスタートですよ。』

でもそこからがさすがの濱田さん! 『自分はその時あるものは、若さと神戸で培った感性。神戸にあってもおかしくないような店にしたんです。ハイファッションで、若い人の最先端の技術を高砂の路地奥で始めるんです。お客さんはいるもんですよ。大繁盛しましたね。戸が閉められないんですよ。』

凄い!! その後、店には広い駐車場が必要だと感じ、米田に店を出して35年。その間、店でフリーマーケットや様々なイベントに取り組みされたという。業界のイベントにも積極的に取り組み、ニッケパークタウンの広場でヘアショーをしたり、テレビ番組のヘアファッション講座も年間レギュラーを務められたとか。

また濱田さんは業界のみならず、現在は高砂地区まちづくり協議会の会長も務められるなど、地域貢献にも注力されています。

『これからも自分としては高砂でいろんなイベントを、一緒に皆さんとさせていただこうかなと思っています。また商売に関しては、どこで商売してもその気でやればお客さんは来てくれるんや、というようなことを経験したうえで、高砂でとことん頑張っていくつもりです。最近はコインランドリーも併設して、女性の生き方改革、女性の生活スタイルをもっと広げて、楽しんでいただけるよう考えています。』と締めくくられました。

濱田さんの「高砂愛♡」に溢れたエネルギッシュなお話にすっかりパワーをいただきました。濱田さん、貴重なお話 ありがとうございます。

## 商業部会について

高砂商工会議所では、会員様が営んでいる主要な事業の種類ごとに、7部会が設置されています。そのなかで商業部会は、各種商品の卸売業、小売業等を営む約330会員が所属する部会です。それぞれの部会が、事業の適切な改善発達を図るため、部会事業を積極的に展開しています。

商業部会においては、高砂の魅力ある個店を広く発信し、地域商業の発展を図るため、今回のインタビュー事業を実施しました。今後も会員相互の発展につながるような事業を企画していきますので、引き続きご協力ご程、よろしくお願いいたします。



## 連絡先

高砂商工会議所 商業部会事務局 担当: 中村/澤田  
兵庫県高砂市高砂町北本町1104 TEL.079-443-0500 FAX.079-442-0369 HP.http://www.takasago-cci.or.jp/



# 宝殿の眼鏡屋さん

(株)たかはしメガネのたかはし

高橋 圭介 氏



Q. 株式会社たかはしの高橋さんということで、何屋さんでいらっしゃいますか？

A. JR 宝殿駅北側で眼鏡及び補聴器、それに付随したものを売っています。あとごく一部ですけれどもビジョントレーニングとあって、目の機能、視力以外の部分を鍛えるような、視覚の強化、筋肉の動きとかですね、評価やトレーニングをしたりとかさせてもらっています。

Q. ほかの店とここは違うねん、みたいなのところがあったら。

A. やっぱり長くやってきていて、20年、30年を超えるスタッフが揃っているっていうところですよ。今は会長職に退いた父も入れて、家族は4人、それ以外の従業員6人で合計10名でやっております。二つ目は技術を売りにしております。眼を調べたり、眼鏡の調整という技術を習得するには、すごく時間がかかることです。眼鏡とか見ること、聞くことに困っていたりしたら、それを解決することには自信がある。また置いている商品についても、店舗に置いてある眼鏡の数でいえば、おそらく兵庫県でも3、4番目ぐらいにはなるのかなと思います。

Q. そうなんです。高橋さんは何代目の社長さんになれるの？

A. 2.5代目みたいな感じで。実はおじいちゃんが高砂で眼鏡屋さんをしております、うちはそこは関係なく宝殿市場で眼鏡屋をはじめまして、今は宝殿の北側に移っているんですけども、会社というものでは2代目という形になります。



Q. 二代目さんということは、生まれ育った時から眼鏡屋さんになるぞという思いでいらっしゃったんですか？

A. そうですね。小学校ぐらいの時から眼鏡屋をやろうとは思っていました。…というのは、昔の市場っていうのは、学校から帰ってきてても裏から家に入るんじゃないで店のほうから入って店番もしたり、お客さんにも可愛がってもらったりというような中で育って、自分もそんなことをやるという気持ちは昔から持っていました。

Q. で、そのままお店を継がれたわけですか？

A. いや、大学を卒業しまして、3年だけ外で働くつもりで就職して、3年のつもりが6年ぐらいいることになり、そろそろ自分の会社に戻らないといけないな。でも特に知識もないまま帰るのもなんだなと思って、日本には眼球専門学校という眼鏡の専門学校がありまして、名古屋で2年だけ勉強に行っていました。

Q. まだ勉強するんかいな。

A. はい。それまですごく勉強は嫌いやったんですけども、特殊な眼鏡というものを勉強していくうちに、もっと勉強したくなって、「眼」についてはアメリカがすごく進んでいたんでアメリカの大学に3年間行きました。そのあと北海道の眼鏡屋さんで初めて眼鏡というものの修行という形で1年間行きました。

Q. お店としては待っていらっしゃったことでしょうか。

A. まあ、父も母も健在だったんで、そこはですねもすり切れてなくなるぐらいかじりましたけれども…まあ戻ってきて、一年後に代表交代してというようなことで。

Q. 先日お店にお伺いした時に、アットホームな雰囲気のお店だなと思ったんですが、そういうところは心掛けていらっしゃるのでしょうか。

A. そうですね。最初の頃はやっぱり誰よりも長い時間働いて…というような、一生懸命働くことが僕が存在意義かなと思って頑張ってたんですけども、経営者側として考えた場合、目指しているのは自分の性格に合った経営だなと思って。本当に人を大事にして、優しさとか思いやりにあふれる会社、『どこよりもそうだね』と言われるような会社になりたいと思ってるんです。

Q. 自分の性格に合った経営ということでございますが、自分の性格を経営者としていうならば、どんな性格？

A. 自分で言うのもおこがましいですけども、どっかかという思いやりはあるのかなと思っています。

Q. プライベートではご家庭がある。奥様と？

A. 娘2人。

Q. かわいいですか？

A. たまらなくかわいいです。僕自身、結婚が遅かったんです。今子供が小4と3歳です。

Q. まだまだ手がかかる時ですね。

A. 孫的な感覚で見てる時もあるんですけども、その分仕事もしっかりして頑張ってるんで、なあかんなど、そういうプレッシャーを感じながらやっております。

Q. 今後お店としてもっとやっていきたいなと思っていらっしゃるのでしょうか。

A. 店っていうところでは人を育てて、人が育ったらその人に合ったステージが必要だと思うんで、やみくもに展開していくんじゃないで、人に合った店の展開というものを考えて、できれば店舗を増やしたいというのもありますし、それ以外の部分でも新しいことは初めていきたいなと思っています。

Q. 何かお伝えになりたいことがありますか？

A. 本当にいろんな方にお世話になって…という意味ではそれも返返ししていかないといけないと思います。その人に返すのは難しいと思うんで、また違う人に返してあげればな。今でいうと宝殿とか。地名であり駅名ということで、自分の会社がたまたま駅の北にあります。今イベント、夏祭とかを今回3回目、また8月24日にあるんですけども、仲間みんなも自分の店で忙しい中で作って行くことの難しさを感じているんですけども頑張ってるってしていきたいなと思います。

Q. では最後に、お店のPRをお願いできますでしょうか。

A. 自分としては、いいものを適正な価格で提供させていただいている自信があります。また眼鏡に困ったりとか、聴くことに困ったりとか、そういう見えるとか聴こえるというのは生活の質をすごく上げるものですし、そういったものが欠けるとやはりコミュニケーション力とかも落ちていくんで、是非そういったところを意識していただければと思います。また、見せるというところでは、見せ方もすごく変えられるツールだと思ってます。洋服とかは毎日着替えてるけど眼鏡は顔に載せて毎日あるものだし、そういったところの意識を是非高めていただき、またそのお助けができるのであれば是非ご利用いただければなと思っています。よろしくをお願いします。



## 店舗情報

(株)たかはし  
メガネのたかはし

住所：高砂市神爪1丁目2-11  
店舗：加古川市西神吉町岸155-4  
TEL：079-432-9314  
営業時間：9:30～19:30 定休日：第2水曜日

# 高砂の魚屋さん

(有)つりた

釣田 ハツ子 氏



Q. 高砂の魚屋さんということで有限会社つりた、釣田敏一さんのピンチヒッターで釣田ハツ子さんでいらっしゃいます。大きな拍手をお願いいたします。女性部の方、是非応援をお願いします。お魚屋さんということで、場所はどちらでしたかしら？

A. 銀座商店街、鍛冶屋町です。

Q. すぐそこ、ですよ。皆様ご存知の方ばかりだと思います。お店はいつから始められたんでしょうか。

A. 商店街に出しましたのはね、戦後、昭和20年、と聞いてます。

Q. お客さんっていうのはどういうお客さんがいらっしゃるんですか？

A. そうですね、地元の方、今でしたら学校関係、会社とかいろいろね。注文聞いて配達もさせていただきます。

Q. 実は私てんぶらを頂いたことがあって、ごぼうもおいしく炊いて揚げてあって、めちゃうまいかった。

A. 先代がね、最初試行錯誤したらしいですけど、鰹の出汁、魚の出汁から味を取ってね、それで炊いて味を見たようなんです。それはずっと今も伝統を守ってます。うちのてんぶらの中ではナンバーワンというか、ごぼ天が一番売れてます。

Q. お客さんが来られるたびにね、ご主人の敏一さん、「まあ、〇〇さん！」言うてお客さんの名前をね、そのまま呼ばれるのよ。

A. あれはね、もう昔から感心しますね。お客さんの名前、子供の名前をね。他の事は忘れてもね(笑)、それだけは忘れません。あれは感心します。

Q. つりたさんのお店は、他の店とはここが違います、というところは？

A. やっぱり冷凍ものとか既製品の物を使わないで、全て職人さんが手作りで作っているというのが私は良いと思うんですが。手間暇かけてね、作り置きのものとは違うかなと思います。

Q. ご家族ぐるみで経営というかお店をやっていらっしゃるということですが、ご苦労なさった時もあったんじゃないかなという風に思うんですが。

A. そうですね。2年前に西友サンモールの閉店が決まった時にはね、大変苦労しました。どうなるかと思ってね。一時はやめようかなとも思ったんですけどね。でも5人の職人さん抱えてるし、ここでやめたらその人たちの生活もあるしね。ここでやめたらだめと思って…。次の店舗考えたりいろいろ奔走しました。

Q. やっぱりご苦労なさったという経験があったんですね。

A. 地元の人、皆さんの激励とかね、従業員がその時本当に一丸となって頑張ってくれましたからね、乗り越えられたと思います。

Q. そうですか。おそらく従業員さんも、街の方の声とかをリアルに感じ取っていらっしゃったからこそということもあるかもしれないですね。

A. 本当にあの時は、街の人やお客さんの声には助けられました。嬉しかったです。

Q. お仕事をされていて面白いと思うようなことは。

A. やはりね、作ったものが完売した時です。そしてお客さんからね、「やあ、おいしかったよ」って、そのお言葉を頂いたときには、ああ、よかった、と思います。その時は疲れも吹っ飛んでしまいますね。「おいしかったですよ」っていう言葉が一番うれしいですね。

Q. そうですよ。いま、うれしいですというお話をなさっていただくときの表情もまた素敵な、そんなハツ子さんを見初められた敏一さん。ご結婚なさったのは今から何年前ですか？



A. そうですね、昭和43年です。私こちら高砂の方に来たのが昭和38年、高校卒業して、今の店の隣で叔父が洋服屋してましてね、そこに手伝ってくれへんかということで、そこに来たんです。たまたま隣が魚屋さんでしてね。

Q. ほう、魚屋さんというのは？

A. それが、旦那。

Q. 実は先日、敏一さんに聞いたんです、馴れ初めの事を。洋品店で綺麗な人がおるわ、という話でした。綺麗な人がおるなと思って、お声を掛けられたたんでしたよね？

A. まあ、その辺はご想像にお任せします。(笑)

Q. そんなこんながありまして、ということはもうご結婚50…何年になるんでしょう？

A. そうですね、もう52年です。毎日頑張りました。全然違うところなので、無我夢中で頑張りました。そしてそのころはね、忙しいから、店をあげたらお客さんがバーッと来てくれる時だったので、毎日朝から晩までそれこそ自由な時間がないくらい働きました。

Q. そうなんです。ご夫婦で力を合わせて。

A. やっとこさこまで来れたんです。

Q. あの、敏一さんてね、どんな人？優しい？

A. まあ、優しいというのは人一倍優しいと思いますよ。外も中も全く一緒です。みんなもね、家に帰ったら難しいんでしょ？と聞かれるけど、いや、あのとおりです、外も中も全然変わりないです。私が言うのもなんですけど、陰日向の無い人です。

Q. ではみなさんに何かお伝えになりたいようなことはありますか？これからお店ってどういう風にしてこうって思っている？

A. 大型店が出来ればそこに入りたいですね。今売り場と厨房が離れてますから、やはり同じ場所にあって、お客さんが注文したらその場でできる様に、場所が欲しいですね。

Q. では最後にお店のPRをお願いします。

A. これからも伝統の味っていうのをしっかり守って地域の方と交流を深めまして、そして自慢の商品、味でしっかりと勝負していきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。



## 店舗情報

(有)つりた

住所：高砂市高砂町鍛冶屋町1424  
TEL：079-443-6626  
営業時間：9:00～18:00  
定休日：第1・第3水曜日